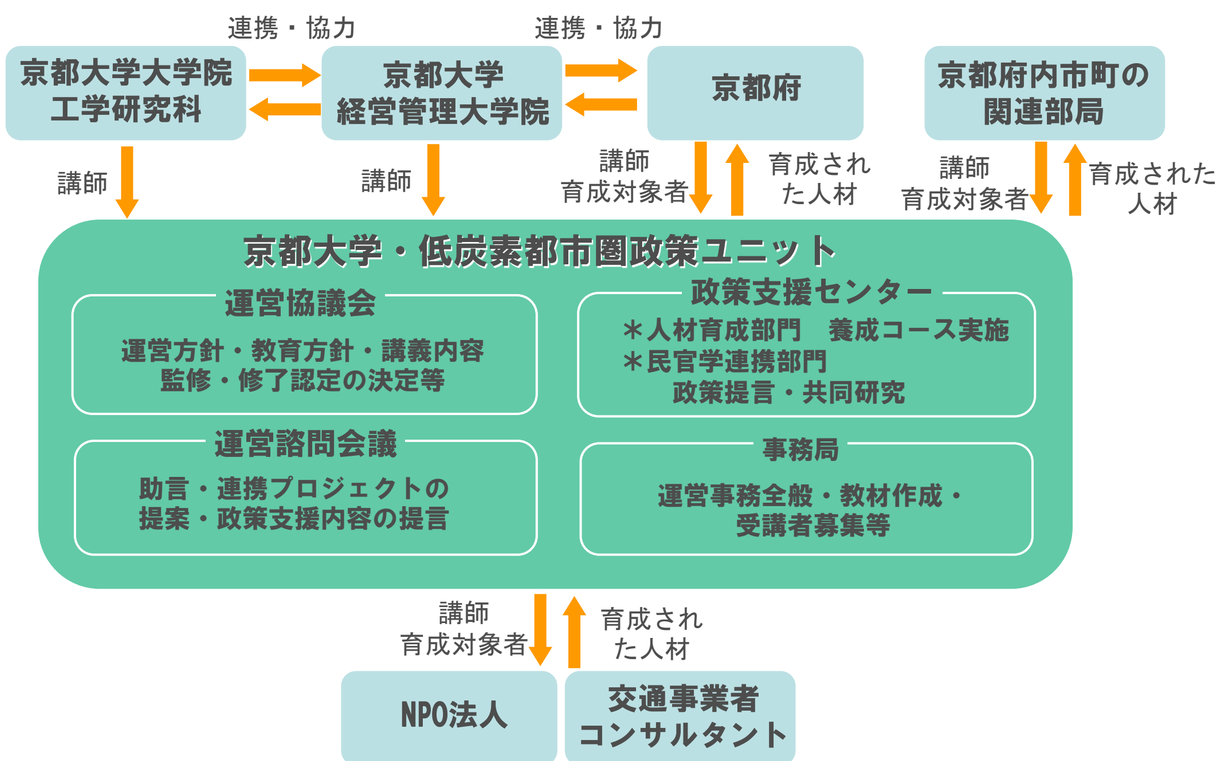
京都大学 低炭素都市圏政策ユニット：都市交通政策技術者養成のための演習と実践

KYOTO-UPL

発表者：松原光也，尹鍾進，中川大（京都大学低炭素都市圏政策ユニット），
村尾俊道（京都府建設交通部交通政策課），
松中亮治，大庭哲治（京都大学大学院工学研究科）

低炭素都市圏政策ユニットの位置付けと実施体制

●人材育成：都市交通政策における世界的なパラダイムシフトをよく理解したうえで、地域に密着した具体的政策を立案・実行できる都市交通政策技術者
●民官学連携：低炭素型都市圏の構築に貢献する政策の計画立案・施策実施を支援



事業計画

	人材育成部門	民官学連携部門
■2009年度	●都市交通政策技術者養成コース ●設置記念シンポジウム開催 ●セミナー開催	●連携機関・支援先との調整 ●民官学連携部門の準備
■2010年度	●都市交通政策技術者養成コース ●シニア都市交通政策技術者養成コース（隔年開講） ●シンポジウム開催	●連携機関 ●政策支援 ●共同研究・受託研究
■2011年度以降	●都市交通政策技術者養成コース ●トップマネジメントコース（隔年開講）	●以後継続的に実施
■実施期間後（2014年度以降）	●継続的な人材育成カリキュラム	●政策シンクタンク

都市交通政策技術者養成コースの実施

2009年度
成果発表会
及び修了式

・京都府内自治体など、官民の都市交通関係部署で活動する人材を育成。
・修了者には本学の工学研究科博士課程や、経営管理大学院ＭＢＡコース等への進学についても助言・指導し、より高度な学習機会を提供する。

養成者人数（単位：人）　（　）内は計画人数

	１年目	２年目	３年目	中間時	４年目	５年目	終了時
UTA養成	26(15)	32(20)	29(20)	87(55)	(20)	(20)	(95)
シニアUTA養成		20(10)		20(10)	(10)		(20)
トップマネジメント			11(5)	11(5)		(5)	(10)
合計	26(15)	52(30)	40(25)	118(70)	30	25	(125)

養成コースの演習

■課題解決型のグループ演習
行政、事業者、NPOなど異なる立場の履修生が、課題を設定し、現地調査・資料収集・意見交換により、地域問題解決のための提案を行なうことで、新たな視点や知見を身につける。また、各自の職場でその成果をもとに施策の実施に取り組む。

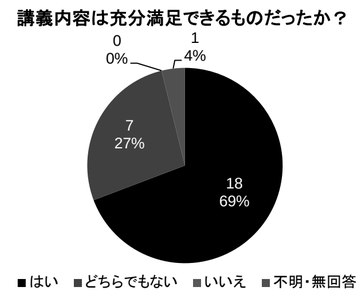
●平成21年度　UTA養成コース
・亀岡市－大井工業団地を連結するオーイBusと亀岡市－大阪池田間通勤快速バス カメイケBusの導入必要性及び導入においての取り組みについて
・らくなん進都公共交通利用促進計画～人が動く、心が動く～
・らくなん進都（高度集積地区）における公共交通促進について
・奈良中心市街地の渋滞対策
・宇治市　環境調和型観光の創出
・阪急長岡天神駅周辺における歩行者中心の交通施策とにぎわいのあるまちづくりについて
・京田辺市をケースとした公共交通利用促進によるまちのにぎわい創出について

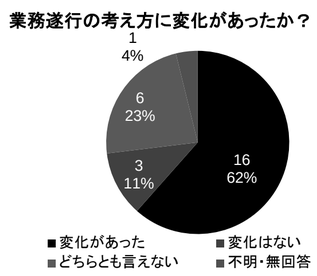
●平成22年度　UTA養成コース
・京都府久御山町を対象とした新たな都市交通政策の提案 ～バス・自転車・徒歩で暮らせるコンパクトなまちづくり～
・新たな観光スタイルによる低炭素都市圏の実現
・まれにみる人口増加都市における新たな都市構造の提案～生かし切れていない公共交通～
・京田辺市が目指すまちの姿と交通　～三山木駅を中心としたまちづくりと交通政策の連携～
・木津駅を中心とした公共交通について　～休日楽しく過ごせる木津駅中心のまちづくり～
・そうだ！亀岡へ行こう！～亀岡からはじまる嵐山観光プロジェクト～
・「公共交通で繋ぐ」事から始める低炭素社会の構築 ～高度集積地区及び長岡天神駅周辺をケーススタディとして～
・低炭素社会の実現に向けた鉄道間の結節機能の向上
・安寧の都市実現のための交通政策　～共有空間(shared space)という考え方～

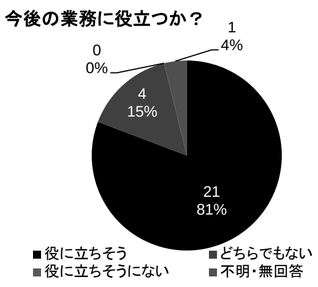
●平成22年度　シニアUTA養成コース
・京都市南部地域における東西方向の新しい公共交通システムの一考察
・鉄道の再生による地域活性化の可能性について　～丹後地域とKTRを事例として～
・新京都市周辺南西部地域（桂川右岸地域）における総合交通計画の策定
・京田辺市における新たな移動空間の創出によるまちづくりの提案について
・「低炭素社会実現」に向けた通勤・通学におけるサイクルアンドバスライドの提案
・京都市南部及び宇治市東部における公共交通ネットワークの再編と利用促進

履修生アンケートの結果

■2010年度都市交通政策技術者養成コース　履修生アンケート







2010年9月10日メールにて実施
回答数26名
所属は行政、交通事業者、コンサルタント、大学院生など
講義内容：　満足69%、不満足27％
詳しく聞きたいとの声も→ｼﾆｱUTAの受講を勧める
業務上の考え方：　変化62%、変化なし11％
今後の業務：　役に立つ81%、役立たない0％

人材育成と民官学連携の実践

■国際シンポジウム　４回開催
・2009年11月30日　設置記念シンポジウム　参加人数：約230名
・2010年8月1日　第２回低炭素政策に関する国際シンポジウム　参加人数：約30名
・2010年11月15日　第３回国際シンポジウム　参加人数：約250名
・2011年12月12日　第４回国際シンポジウム　参加人数：約230名

■都市交通政策セミナー　５回開催

■セミナー等の共催・後援　12件
再生塾（基礎編・アドバンスドコース、議員向けセミナー），全国路面電車サミット，近畿運輸局地域公共交通活性化・再生セミナー，日本不動産学会シンポジウムなど

■履修生OB会（通称：炭交会）
都市交通政策技術者養成コースを修了後、履修生や教員を含めて情報交換、人的ネットワークの形成を目的に、履修生が発起人となって発足。
意見交換会の開催、共同プロジェクトの実施（舞鶴MMプロジェクト）

■履修生の学会発表等
・京都府南部地域における「バス・エコファミリー」の取組効果の検証について
・通勤・通学におけるサイクルアンドバスライド
・都市近郊における中小鉄道の利用促進及び沿線活性化に向けた取り組みの提案
・「観・感・環、「iKeco」で発見！いけだのまねきエコ ～大阪池田市の地域通貨「iKeco」と連携したMMと、一連のMMのパッケージ展開～」
・京都府全域を対象とした免許更新時モビリティ・マネジメントの継続的な取組と効果
・京都府南部の自転車通行環境整備モデル地区パイロット事業（演習成果を応用）

■民官学連携部門　自治体等の政策を支援　12件
科学技術戦略推進費以外の財源を獲得して実施、協議会委員等によるアドバイス、受託研究など、政策の計画立案、施策の実施を支援　※ まち交研：京都まちづくり交通研究所

・京丹後市200円バス
・醍醐コミュニティバス
・観光地めぐり時刻表（まち交研）
・京都よるバスプロジェクト（まち交研）＜かわらまち、ぎおん、京都観光＞
・福知山線の複線化による利便性向上に関する委託研究（兵庫県・丹波市）
・超小型モビリティの利活用に関する実証実験（京都府・京田辺市・木津川市）
・京都まちなか交通・観光案内所（まち交研）
・らくなん進都バス（社会実験→まち交研）
・舞鶴「京都・洛楽きっぷ」の発売による公共交通利用促進キャンペーン（京のアジェンダ２１フォーラム、京都交通、京都市歩くまち推進室、京都市交通局）
・福知山市生活交通ネットワーク計画
・北陸新幹線敦賀・大阪ルート調査受託研究（関西広域連合）
・大山崎町コミュニティバスルート調査受託研究

便利＋低炭素＝魅力あるまち

京大 最大規模 路線バス実験

京都駅八条口
京都駅
烏丸通
近鉄京都線
京都南インターチェンジ
京都バルスプラザ
名神
新たに京都市南部を走る「京都らくなんエクスプレス」。黒を基調としたインパクトの強いデザインで利用者にアピールする

京都市・らくなん進都

継続運行を目指す

京都大は、京都市南部の高度集積地区「らくなん進都」に新たな路線バスを走らせる交通実験を11日から始める。便利な公共交通で脱自動車を進め、環境に優しいまちづくりを進める。大学が行う路線バスの実験として全国最大規模になるという。

路線バスは「京都らくなんエクスプレス」と名付けた。京都駅八条口と伏見区のバルスプラザ・京セラ本社を直行でつなぐ。運行は民間事業者に委託し、午前6時台から午後9時台まで。朝夕は15分間隔、昼間は20分間隔で走らせる。所要時間は15～18分で、運賃は300円に設定した。

実験を行うのは、京大工学研究科が経営管理研究部と連携して都市と交通計画の政策支援や人材育成に取り組む「低炭素都市圏政策ユニット」。

バルスプラザ周辺は公共交通機関がなく、駐車場や空き地が多い低密度な土地利用になっている。公共交通機関の導入で、自動車利用を前提としないコンパクトでエネルギー効率の高いまちづくりを進めるのが実験の狙いという。

バス交通の活性化もめざしており、利用動向調査や住民アンケートを行い、新しいバスシステムの構築を図る。1年以内に実験を終え、通常のバス路線としての継続運行を目指す。バルスプラザ以南への延伸も検討中。

岡ユニットの中川大教授「都市・交通計画」は「まちづくりが進み、利用者が生まれてからバスを走らせるという後追い型の発想から転換し、まず側面的な公共交通機関を提供することで、魅力的なまちづくりを進めたい」と話している。（目黒雅幸）

京都新聞
（2010年10月9日）

※本プログラムは文部科学省科学技術戦略推進費によって運営しています。